

(第3種郵便物認可)

# 春の叙勲 府内149人

春の叙勲の受章者が発表され、府内からは旭日章31人、瑞宝章118人の計149人が選ばれた。教育や医療、地方自治など社会のさまざまな分野での功績が評価された。発令は29日付け。

## 食卓に安心届ける

旭日双光章

府青果卸売協同組合理事長

東野 達雄さん 72

(茨木市白川)

15歳で果物の仲卸の世界に入った。「生産者が一生懸命作ったものを、消費者に安心していち早く食べてもらうこと。シンプルだけ



「これからも市場を活性化させたい」と語る東野さん（茨木市で）

ど、これが一番大事」。その思いは、半世紀以上たっ

た今も変わらない。中学卒業後、「商売をしてみたい」と親戚の青果仲卸会社に就職して仲卸の基礎を学び、29歳で仲卸会社を構えた。1978年の府中央卸売市場開場当初か

ら、府青果卸売協同組合に加入。様々な活動に参画し、2010年には理事長に就任した。

「大阪の天気だけ見ている

でもだめ。生産地の気候は冷夏で収穫量が落ちないか、大雪で道路が寸断されないか、円安で海外に流れないか」とアンテナを張り巡らせ、需要と供給から先の値を読む。

市場が果たす役割を常に考えている。阪神大震災発生2日後には、4トトラック2台分のバナナやリンゴなど、調理しなくてもすぐ食べられる果物を被災地

に届けた。「おなかをすかせた被災者に一刻も早く、食べ物を届けることは、食料基地としての義務」と力を込める。

食育にも積極的に取り組む。市場を身近に感じてもらおうと、年間約23000人の小学生の見学を受け入れている。「普段、口にしていない食べ物がどこから、どうやって食卓まで届くのか。食べ物への関心を高めてもらいたい」。全ての取り組みは「消費者と生産者をつなぐパイプ役を果たすのが市場の原点」という信念に基づいている。